

# 校歌制定のしおり



2万4216㎡の敷地に新築された校舎、体育館も同時に完成

## 校舎落成・校歌制定に寄せて

新校舎落成に寄せて

(新校舎落成記念事業実行委員会  
委員長・田辺 俊雄)



この度教育委員会、市及び市議会等関係各位の御尽力により、最も近代的な校舎と体育館を新築、三つの運動場が拡張整備され、ここに竣工の運びとなり、心から感謝の意を表する次第であります。

これを契機として学区全般の声により、校舎新築落成記念事業実行委員会が結成され、校旗の作成、校歌の制定、校舎東側に正門建設及びフィールドアスレチックの設置等の事業を実施することが出来ました。このことについて、学区全般及び有志各位より多大の御協賛を賜わり厚く御礼申し上げます。

北に景勝印旛の水あり、西に悠久鹿島の流れあり、緑の森林と田園に囲まれ、運動公園に隣接した最高の環境、純朴なあたたかい郷土のかおり、藩校このかた百余年の歴史と伝統、英知のつみ上げによる輝かしいバラ色の未来、それ等のすべてを見事に表現された格調の高い校歌の詩と曲は、子供から大人、そして学区全体の愛唱歌となって生々と力強く永久に歌い続けられることでしょう。

校舎落成・校歌制定を

学区全体の喜びとして

(PTA顧問・桜井 敏行)



待望の新校舎並びに体育館が竣工されましたことは、学区一同の長年に亘る夢であり、今日に至るまで各関係機関の方々の御支援と御協力に対し心から感謝申し上げますと共に御礼申し上げます。

近年都市化の波と共に急激に人口が増加し、各地区に学校が建設され近代的な校舎が次々と建設されましたが、第一小学校は、番おそくなってしまい誠に申し訳なく思っております。

しかし乍ら恵まれた環境と今回議案として提案されて居ります第一小学校を改名して内郷小学校とすることは内郷学区の人々は非常に懐かしさを感じると共に歴史と伝統を改めて振り返ることが出来ると思えます。

歴代校長先生を始めPTA会長さん又御父兄の方々の本日の感謝は言葉に尽くせない喜びと存じます。

私も皆様方の御支援により十六年間の市議会議員生活を送らせて頂きましたが、本日の竣工ほど、「これで良かった」と云う喜びを覚

えたことはいません。二年後には岩名団地が完成し、生徒数も第一小学校と同数位の規模になって参ります。都会的な考え方も自然に出てまいります。学区一同力を合せて本校の発展のために努力されます様希望いたします。

又山下前会長初め校歌を作成されました関係者に対しても心から慶意を表します。

終りに諸先生方・御父兄の方々・関係者の皆様の御多幸・御健勝を祈念申し上げますお祝いの言葉といたします。

新校舎落成及び

校歌制定に寄せて

(PTA会長・清宮光雄)



待つ事久しかった新校舎が体育館も含めて同時に完成しました。又自然林を残し変化に富んだ広い運動場も出来ました。これにつきましては市長さん、教育長さん、顧問の桜井議員さん、その他関係各位の絶大なる御支援、御協力の賜物であり深く感謝申し上げます次第でございます。新しい教育環境のもとで歴史と伝統のある本校の教育が始まる訳であり、そして又今日ここに校歌を披露出来ます事をこのころより喜びたいと思えます。校歌についても、環境、歴史、理想をうたい本校の児童の現在と限りない未来とを温かい目と愛情のこもった心で詠んだ立派な詩が出来ました。

作曲の先生は市内の他の校歌も作曲された千葉大の先生です。この学区を一巡し詩と環境の印象が良かった様で素晴らしい曲だと思います。低学年より高学年へ進み、そして歌の心が理解出来た時本校の生徒としての自覚

も湧いてくるだろうし、卒業した後も忘れられない歌の一つになる事と思えます。

新しい校舎と

校歌ができて思うこと

(児童会会長・丸山 幸二)



ぼくたちは、六年の間木造建ての校舎の下で勉強してきました。風の日は教室の中に入ってきた風が入ってきて、窓に紙をはってなおしたことを覚えていて、冬の寒い日は冷たい空気がどこからか入ってきて、ほかの学校はみな鉄きんでできていたのにうらやましいなと思っていました。五年の遠足の時に、バスガイドさんに「みんなて校歌を歌いましょう」と言われたけれどもまた校歌はありませんでした。校歌がないとなんかさびしい気がしました。でも今では新しい校舎も完成しました、校歌も作られて歌った時はとてもうれしかったです。ぼくたちが卒業記念品として残すものは、板にはった校歌で今度建てられた体育館に立ちはかざっていただきました。新しくできた体育館での初めての卒業生なので記念になります。またこの体育館でたとえ何日でも力いっぱい運動できると思えます。この立派な体育館で運動できる思い出をむねに、立派な中学生になります。

編集 新校舎落成記念事業実行委員会  
発行者 実行委員長・田辺 俊雄  
昭和54年3月26日発行

## 校歌制定に寄せて



校長 香取 博

本校は明治四十一年四月一日、飯野校と湖南校が合併して、内郷尋常小学校として現在地に創立されました。飯野校の創立が慶応元年十月でありますので、此の時代に遡れば実に百有余年の歴史と伝統を受け継いでおります。昭和十二年町村合併により内郷村は佐倉町となり、市制施行と共に夫々校名を町立、市立と改称して現在に及んでいます。

時代の変遷に伴い国や県にそれを象徴する歌があるように校歌の制定は日頃の念願でありました。昨年度六年生の修学旅行に「バス」で箱根方面へ出発の折、発車後間もなく案内の方が、皆さん元気で校歌を歌いましょうと言われた時のことでした。「校歌はありません。運動会応援歌はありません」といって、校歌の代わりに応援歌を歌いましたが、どの子の顔にも校歌のないというものは、学校生活において一抹の寂しさの念に駆られていたようでした。此の度校舎及び体育館の新築、運動場拡張を記念して祝賀落成記念事業の一つとして、校歌の制定されましたことは真に喜びに堪えません。歌詞の募集に際しましては学区内の皆様より多数応募して戴き有難うございました。歌詞の決定や作曲にいたるまで幾多の紆余曲折はありましたが、その間PTA役員の方々を始め学区内皆様方の絶大な御支援と協力をいただきましたことを深く感謝申し上げます。朝夕校歌を口ずさむことにより自覚を深め、光輝ある校風を一層発揚されるよう指導に精進する所存でございます。

# 永遠に歌い継ごう我が校歌

♩ = 100

## 校歌

作詞 山下 豊  
作曲 寺内 昭

- 一 緑ときわに内郷の  
湖南の丘にそびえたつ  
静き学びや空澄みて  
希望はたかきわが大志
- 二 歴史は古き藩校の  
学びてここに百余年  
文化の園をうけつぎて  
すすむ世紀のあさぼらけ
- 三 仰ぐまことのことわりは  
世界をてらすみちしるべ  
英知の宝庫つみあげて  
たゆまぬわざにほまれあれ

## 校歌作詞・作曲者のことば

### 作詞者



山下 豊

### 落成讃歌

明けそめし 東海の天  
啓蟄の 光り満ちたり  
誇らかに 新たな誓い  
聞きゆく 真理の旗幟を

### 作曲者



寺内 昭  
(千葉大学教授)

百年の えにしの園  
湖南の丘 緑麗し  
仰ぎみる 静き学び舎  
ともがらぞ 永遠に讃えん  
(一九七九・三・一〇 山下 豊)

世界各国に、その国を象徴する国歌があるように、わが国の学校教育に於いても、現在ではその学校の表徴として、すべての学校が校歌を定めているもののように思われます。

しかるに本校に於いては、その前身である藩校の属郷校として開校以来、百十有余年の歴史と伝統を有するにもかかわらず、諸般の事情により校歌の制定をみなかつたわけです。

さて今日、世界的に現代詩(自由詩)が脚光を浴びていますけれども、本校の「真の姿」を世界的視座に立って詩いあげることは私達に課せられた大きな責務であると思えます。

古義に「詩は志を言い、歌は言を永うす」とありますが、私は、今なお著古の輝きを示すギリシアの古詩及び讚美歌、インド抒情詩の起源をなす西暦紀元前一二〇〇年頃成立した「リグ・ヴェーダ」讚歌、中国の「詩経」とその後の詩、並びに日本の詩歌等々幾多の作品を渉猟し、「詩の原理」を洞察するとともに校歌の特質の究明にあたりました。

そして、作詞にはそれらの観点から本校の環境・歴史・理想を熟考したしだいであります。

今節は機械文明のお蔭で、瞬く間に山が切り拓かれ、或いは海岸が埋め立てられたりして新しい町が生まれ、それと同時に学校等も建設されて、当然校歌を……との話も出てくるわけですが、中にはその置かれた環境によって、自然の風土的条件や、周辺の歴史的条件等に乏しいところもあって、大変創作に苦勞することもあるものです。

その点「緑ときわに……」と歌い出される内郷の里は、こうした条件を自ずと備え、誠に恵まれた環境の中にあつて、大いに創作意欲を湧き立たせてくれました。

幸いにして、山下豊氏の御努力により、

本校々歌に於ける歌詞には、そうした美しく豊かな郷土の「かおり」が十二分に織り込まれ、又、真理を求め、児童達が希望に満ちみちて邁進されんことを願う気持ちが見事に歌いあげられています。従つてその作曲にあたっては、歌詞に伺える「かおり」とか「意気」と云うものを、今の児童達にふさわしいリズムや旋律で如何に表現したらいいたろうかと努めました。ひと口に、「ふさわしい」と申しましたが、対象が子供だからと称して、作品としての要素に乏しかったり、或いは稚拙なものを押しつけてしまつたりするような間違われた意味のものではなくして、児童達の声域のことやリズム感・音程感その他いろいろな音楽的諸能力を考え合わせた上での、作品に対する精一杯の取り組み方が要求されることは勿論です。

こうして反芻し推敲を重ねて、いざ出来上つた作品ではあつても、果たして「あれでよかったのだろうか」と些か心配は尾をひいているものでして、そうした時に、実際に親しく聞近に児童達の元気な歌声で聴かせていたことが出来た時のその喜びと云うものは、作者にとつて格別なものがあります。そうして愛唱され、歌い継がれていくとき、初めてその作品も一人前に歩いて行けるものとなつたように思われる心地がいたします。よく芸術歌曲等に見られるように、歌詞に従つて通作的にずつと流れていくものと違い、校歌に於いては三番まで一つの旋律で歌うわけですから、全体を通じて詞と曲が如何にマッチしてくれるかが作曲者の願いであり又苦勞するところでもあります。どうぞ生きいきとした気持ちで朝な夕なに重ねて愛唱され、末永く皆さんの学校への愛情と共に力強くこの校歌も育てていって頂きたいと願うものであります。

## 思い出多い学び舎

▼昭和27年当時の校舎



▲改築前の校舎



昭和12年2月11日	小学校と改称
昭和22年4月1日	町村合併により、佐倉町立となり、佐倉第二尋常高等小学校と改称、大佐倉区児童は希望により佐倉尋常高等小学校に入学
昭和16年4月1日	佐倉第二国民学校と改称
昭和18年4月1日	大佐倉分教所を廃止。大佐倉区は佐倉第一国民学校の学区に分離
昭和22年4月1日	佐倉町立佐倉第二小学校と改称
昭和29年4月1日	市制施行により佐倉市立佐倉第二小学校と改称、現在に至る

明治20年7月10日	〔内郷第一尋常小学校〕 岩名村、飯田村、萩山村、山ノ崎村、下根町、下根村、宇高座木村の7か町村にて岩名村玉泉寺に創立し、湖南尋常小学校と称す
明治25年8月10日	湖南尋常小学校を内郷第一尋常小学校と改称
慶応元年	〔内郷第二尋常小学校〕 飯野台居住の藩士の子弟養成のため飯野台に創立し、飯野学校と称す
明治6年	飯野小学校と改称
明治10年	龍崖小学校と改称(当時飯野小学校と称する学校があつて同名のため)
明治20年	飯野尋常小学校と改称
明治21年	飯野村の飯野小学校を廃校、飯野尋常小学校に合併
明治23年	湖南尋常小学校の分校となり、飯野町分校と改称
明治25年8月23日	村立内郷第二尋常小学校と改称
明治25年8月22日	〔内郷第三尋常小学校〕 字浜宿(大佐倉)に内郷第三尋常小学校創立
明治41年4月1日	〔佐倉市立佐倉第二小学校〕 内郷第一尋常小学校・内郷第二尋常小学校・内郷第三尋常小学校を廃し、内郷尋常小学校創立、旧内郷第三尋常小学校を分校とする
大正3年5月1日	高等科を設置し、内郷尋常高等

## 学校沿革